

第1回「ふれあいトーク」当日のやりとりコメント

【1】 向竹瓦地区の防災について

向竹瓦地区の防災については、日立市の管内に含まれていますが、東海村民である向竹瓦地区の防災訓練や放射線講習会等に関し、村にも協力していただきたいです。

⇒ 【村長コメント】

向竹瓦地区における原子力防災に関しては、日立市との協定に基づき、村ではなく日立市に訓練等の実施を委ねております。村職員の今後の協力等については、担当課に検討させたいと思います。

【2】 障がい者に対するデイクアサービスの拡充について

「なごみ」に障がい者は集まって来るのですが、仲間同士のコミュニケーションはたいへん難しいです。指導員を介しながら、徐々にやりとりを始めてはいますが、デイクアについて更なるサービス拡充が必要と考えます。

⇒ 【村長コメント】

デイクアサービスのあり方については、まだまだ工夫の余地があるものと考えています。東海村総合支援センター「なごみ」におけるデイクアサービスの拡充について、担当課に検討させたいと思います。

【3】 将来的な雇用のあり方について

子どもたちが大きくなった時に、はたして村内にどういう仕事があつて、子どもたちが村のためにどう貢献してくれるかと考えると、心配になってしまいます。村内で農業振興をという話もあるようですが、農作業も過酷ですので、農家の休暇制度を作るなども必要でしょうし、企業を誘致して働ける場を増やすなど、村を盛り上げる方策を検討する必要があるのではないのでしょうか。

⇒ 【村長コメント】

せっかく子どもたちが良い環境で育っても、大人になって働く場所がないというのでは困ってしまいます。これについては、私も危機感を抱いています。東海村だけで見ると雇用も限られてしまいますが、ひたちなか市や日立市など隣接市も含めると、企業はたくさんあります。村としては、大量雇用は無理でも、原子力科学のベンチャー等の起業を助けられればと思います。

また、農業について、農地を守ることはたいへんです。これから村で農業公社を作って、作業受託等できればと考えていますが、ここに若い人たちが参加できれば、やがては独立もあるのではないのでしょうか。自然や農地を守るには、散策道を整備するなど、ある程度は人の手を入れて、観光的に村外から人を呼び込むというビジネスもあるものと考えています。

【4】イオン東海店前の道路(横断歩道)について

イオン東海店前から駐車場に向かう信号機付きの横断歩道は、道路に段差があり、カートを押して渡ろうとする歩行者がつまづき、場合によっては、転倒してしまうケースも見られます。

また、当該交差点における歩行者用の信号について、時間が短すぎて年寄りが渡りきれないケースもあるため、改善していただきたいです。

⇒【村長コメント】

駅前の路面はインターロッキングになっているところが多く、段差のために、車椅子やベビーカーを押しづらいという声も上がっていました。景観との兼ね合いもありますが、段差解消等のバリアフリー化が可能かどうか、担当課に現地を確認させ、対応を検討するよう指示したいと思います。

また、信号機の時間については、ひたちなか西署に連絡し、改善を求めていきたいと思いません。

【5】原子力事故が発生した場合の対応について

もし仮に東海第二原発で福島のような事故が起こってしまった場合、住民避難等はどうなるのか気になります。

⇒【村長コメント】

現在、茨城県とともに福島第一原発を踏まえた広域避難計画を策定中であるなど、村として今後必要な対応策について検討を進めているところです。

【6】福島県浪江町からの避難を踏まえての要望

平成24年度に、村職員と避難者との座談会(食事会)を開催していただき、たいへん元気付けられました。このような機会を再度、設けていただけないでしょうか。

また、特に高齢者の一人世帯の方など、緊急時の連絡網が備わっていた方が良いのではないのでしょうか。

⇒【村長コメント】

体験談を踏まえた貴重な御意見として伺いました。